



平成 21 年度文部科学省委託事業

青少年体験活動総合プラン

森で過ごす幼少期の子どもたちとの関わりから構築する福井県内での幼少期自然体験活動推進モデル

報告書（簡易版）



特定非営利活動法人
自然体験共学センター

目次

ごあいさつ

巻頭言『幼少期のこどもたちを豊かに育てるために～森の多様性と連携～』
(同朋大学 非常勤講師 村上 忠明)

01、事業概要 . . . 3

02、体験活動報告 . . . 4

◆子ども体験活動

◆保護者講座・体験活動

◆指導者研修会

◆上味見地域でできる幼少期自然体験活動

コラム・幼少期自然体験教室を終えて（森林インストラクター 大石橋 節子）

03、活動成果 . . . 25

04、今後の福井県内における幼少期活動のモデル . . . 26

◆項目ごとに考える森を媒体にした連携

◆モデルづくりにおける課題

コラム・里山で子どもたちが遊ぶよさ（岡保保育園 園長 斉藤 準子）



ごあいさつ

私どもNPO法人自然体験共学センターは、福井市上味見地区の里山と廃校（旧上味見小学校）を舞台に四季折々の自然体験活動を行っています。2001年開始当初は小学校高学年の子ども達の参加が多かった中、徐々に参加者の年齢層が低くなり、2006年頃から始めた幼児を対象にした活動も、2007年春からより積極的に取り組んできています。丁度その頃から全国的に幼少期の自然体験活動や森のようちえんが広がっていき、そうした全国的な盛り上がりにも励まされるようにして私達も活動を続けてきました。

幼少期の子ども達を実際に受け入れていくと同時に、福井大学の松木健一教授をはじめ県内の団体・幼稚園・保育園・関係機関の方々、長野県のこどもの森幼稚園を創設した内田幸一さんをはじめ全国の幼少期活動・森のようちえんの関係の方々にご指導を得てまいり、先人・専門家の方々や同じ思いをもつ方々との繋がりが広がっていききました。

私達の活動に参加する子ども達が遊ぶ場は、上味見の山や森、田んぼや畑、川、神社、廃校、家などで、廃校のすぐ後ろにある山や森では、地域の方のご好意で、思いっきり遊び回ることができます。2006年に子どもたちと作ったツリーハウスがある森では、年間1,000人が遊ぶ場所となり、森に囲まれたキャンプ場作りも進めてきています。子ども達が森で活動する機会が増えていくと同時に、私達自身も森との関わりが深まってきました。田んぼはおたまじゃくしやカエル、ヤゴ、トンボなど様々な生き物が生まれ、やってくる場所ですが、森も様々な生命が息づいています。ある夏休み、裏のキャンプ場で子ども達と一日共に過ごした時に、セミや虫、鳥の鳴き声が沢山聞こえました。最初はあまり意識しなかったのが、そのうち朝・昼・夕方・夜・夜中・明け方でその音色が変わっていくことがわかり、森の豊かさを強く感じたのと同時に私の心もとても温かくなりました。人間は自然の一部ということを感じるそうした感性が育っていくためには子どもの頃から森や自然に親しむことは、とても有意義だと思っております。

自然や森の中での幼少期向け活動がより充実し定着していくため、団体・指導者・地域・保護者・行政等が更に連携し、協力していくことが大切ではないかと考えるようになり、本事業を取り組んでまいりました。2009年9月から活動を開始し、半年間で子ども体験活動・保護者向け活動・指導者研修などを行ってまいりました。不十分さは多々ありつつも、子ども達や保護者がシリーズ活動に参加し、指導者・ボランティア・地域・専門家・保育園や行政関係者など様々な方々のご指導を得て成果も得ることができたと思っております。ここに、本事業のご報告とともに成果と課題を整理するために本報告書を発行させていただきました。

最後になりますが、本事業にご協力いただいた方々・諸団体の皆様に心から感謝申し上げます。

2010年3月

特定非営利活動法人 自然体験共学センター
理事長 辻 一憲

巻頭言

『幼少期のこどもたちを豊かに育てるために ～森の多様性と連携～』

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター
特別代表 村上 忠明（同朋大学 非常勤講師）

レイチェル・カーソンの名著「The Sense of Wonder」でも美しくそして具体的に述べられているように、森と幼少期の年代のこどもたちは、よく似合う。

森に入ったこどもたちは、からだ一杯楽しいことを味わってやろうと、目をきらきらとさせながら、森の中を駆け巡る。驚き、笑い、喜ぶなど様々な表情を見せてくれるこどもたちの様子はとても自然体で、何にも縛られず生き生きとしている。そんなこどもたちの姿を見ていると、森の中で過ごす、ただそれだけでこどもの育ちは充分保障されるようにも思えてくる。

なぜ幼少期に森の体験をさせることが大切なのか。それは、森が持つ計り知れない多様性と何者も包み込む安心感の中で、その五感の果てしない要求にこえても余りある程の発見や楽しさが存在する“不思議な場所”だからだ。

こどもたちは、小さな虫でも見逃さまいと地面近くまでかがみこみ、時には寝転び、じっと観察をする。葉っぱを握りでは匂いをかぎ、木の幹に抱きつき、温もりを感じる。大人が「これは〇〇で、△△なんだよ」などと、説明をしなくとも、こどもたちなりの感性で自然と接することができる。そして実に自然によりそった方法で森と一体になり、創造力や発想力、好奇心や冒険心、楽しむ能力を身につけていくのだ。これらは、ものごとの概念を形成していく幼少期特有の能力である。森は、こどもたちの“無言の師”としていろいろなことを教えてくれる。命は循環していること、木陰が涼しいこと、多様性こそ豊かさなのだという。森を通じて幼少期に磨かれた感性や形成された概念は、その後の人格形成に深く影響し、生きる力の基盤となっていく。

一方、森の中は常に危険な場所でもある。当然、付き合い方を一歩間違えれば命の危険にさらされることになる。人と自然の付き合い方は机上の学習だけでは不十分であり、森の中で遊ぶ中で、自然の摂理に触れることができ、動物や昆虫、崖や沢など体験をもって自分の身を守る術を学んでいくのである。「自分の命を守る。」これも森が与えてくれる大切な学びとなる。どんな森であっても、そこで命が育まれていれば、私たちが得られるものは限りない。身近な森に多くの幼少期のこどもたちに出かけ行ってほしいと願う。そして、多くのこどもたちが訪れることのできる森が整備されていくことを願っている。

最後に、本事業のテーマのひとつである「連携」については、多様な人々が関わりあうことができる森が本来的にもっている要素をうまく生かして実践していくとよいだろう。森づくりにおいても小学校や自然体験活動団体など個々で完結するのではなく、多様な機関や団体・個人が関わりながら活動を実施していくことによって、人と人が結びつき、互いの成長を促し、地域の活性化につながるなどといった効果が生まれるのではないだろうか。「異質協同」の学びは連携によって得られ、深められていく。森は、太古から営々と人々の暮らしと関わりながら存在してきた。そして、「暮らし」はまさに多様性、異質協同によって成り立っている。「森」をテーマにした連携は、「暮らし」の連携と重なるものであり、機能化・分散化による問題を抱える地域の暮らしや地域社会のあり方をあらためて見直し、豊かに再構築していく契機となり得るだろう。

連携とは、「みんなで一緒になって取り組む」ということであり、多様な連携ほど豊かであることはあきらかである。むしろ、その活動の質や価値は、連携度合いによって測られるのかもしれない。

01.事業概要

■事業名：『森ですごくす幼少期の子どもたちとの関わりから構築する福井県内での
幼少期自然体験活動推進モデル』

■事業主体：特定非営利活動法人 自然体験共学センター

■事業期間：2009年8月～2010年3月10日

■事業趣旨：

①福井市上味見地区は、森や田畑が広がり自然や文化、歴史に恵まれる豊かな里山であるが、過疎化・高齢化が進み、使われずに放置された森林が多数残っている。地域の中で使われていない森を整備し、活動の中で使っていくことで、森の環境を維持し、森全体を守っていくことが求められる。そこから上味見に残る自然が貴重なものであることを自他ともに認識し、活用してもらうことで、上味見地区自体を守っていく。森作りや子どもの森での活動に関わってもらうなどの地域の財や人材を生かした自然体験プログラムや生活体験プログラムを進めることや学校や幼稚園がない地域に子どもたちが訪れることは、上味見地区のニーズでもある。

②2009年1月に福井県内で幼少期の自然体験活動推進シンポジウムが実施され、幼少期自然体験活動プログラムに取り組む機運が福井県内で高まっていると共に、指導者及び団体間のネットワークが広がりつつある。一方で、幼少期体験における指導者の養成・研修システムが不十分であり、実践の場がないなどの課題がある。そのため、福井県内の幼少期の子どもたちに対して自然体験活動を実施している団体や教育機関に所属する人たちにスタッフ研修会や保護者向けの講習会の講師として関わってもらい、実習の場として現場を提供してもらうことで、指導者・団体間のつながりを更に深めると共に、福井県内の幼少期自然体験リーダー養成システムを作っていく。

③2つの季節を通して森の中で遊び過ごす中で、幼少期の子どもたちが本来持つ感性や創造力・冒険心などを更に磨き、生き生きとした子どもたちを育んでいくことを目的とした実践活動を行う。四季の変化を体全体で感じ取ると共に、自然への親密さを高めるために3回とも同じ森を使用する。最終的には、森への理解を深め、森で遊ぶことのできる子どもたちを育むため、3回の活動プログラムは段階を踏んだもの（森へ入る→森を知る→森の命をいただく→森への感謝など）を展開する。

④説明会とふりかえり会をあわせて3回、保護者向けの講習会を実施する。保護者に「見て」「聞いて」「体験する」ことを通じて、自然体験の大切さや効果を感じてもらい、理解を深め、今後も子どもたちに体験の場を与えていってもらうようにする。

以上により、本事業を通じて幼少期の子どもたちが身近な森の中で自然体験を行うことで、子ども達のより大きな成長を図り、あわせて保護者の理解を深め、指導者の養成を行い、福井県内の幼少期自然体験活動の更なる推進に貢献していく。

■事業内容：

子ども体験活動『森の幼少期自然体験教室』

対 象：5歳児（年中）～小学校2年生 ※一部の体験会では、参加者の保護者及び兄弟姉妹の参加あり
開催場所：福井市上味見生涯教育施設・周辺の森

- * 『説明会・体験会』 2009年10月3日（土） 参加者：子ども12名、保護者12名
- * 『第1回体験活動』 2009年10月31日（土） 参加者：子ども18名
- * 『第2回体験活動』 2009年12月5日（土） 参加者：子ども21名、保護者13名、弟妹3名
- * 『第3回体験活動』 2010年1月16日（土）～17日（日） 参加者：子ども21名
- * 『ふりかえり会』 2010年1月31日（日） 参加者：子ども13名、保護者13名、兄弟妹3名

指導者研修会

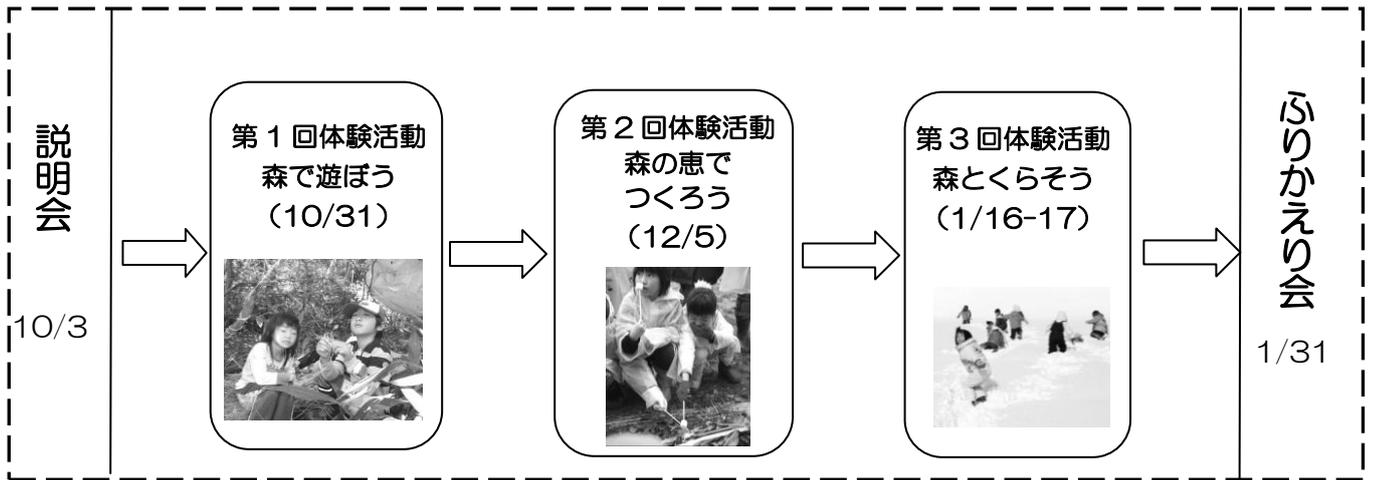
- * 第1回研修会 2009年9月26日（土） 開催場所：福井市上味見生涯教育施設
講 師：大石橋 節子（森林インストラクター）
辻 一憲（NPO法人自然体験共学センター 理事長）
- * 第2回研修会 2009年11月13日（金） 開催場所：社会福祉法人岡保保育園（福井市岡保地区）
講 師：岡保保育園職員
- * 第3回研修会 2009年12月15日（土） 開催場所：福井市上味見生涯教育施設
講 師：萩原 茂男（NPO法人森林楽校・森んこ 代表）
村上 忠明（同朋大学 非常勤講師）

02.体験活動報告

子ども体験活動

子ども体験活動

年中から小学校2年生までの福井県内にすむ子どもたち22名と、10月から1月にかけて、計5回の体験活動を行いました。秋から冬にかけて移ろう森の中で、ここで出会った仲間たちと様々な体験活動を行いました。



説明会

はじめまして、もり
10がつ3にち



【説明会・体験会】 10月3日(土)
てんき) 晴れ
ばしょ) 福井市上味見生涯教育施設・周辺

◆13:30 受付・始まりの会

◆子どもと保護者にわかれて活動

子ども：『森の中へでかけよう』

はじめてであう森に出発し、葉っぱやお花、きのこなど、いろいろな植物や虫を探しました。ツリーハウスのある森では、ハンモックやお店やさんごっこ、宝探しなどをしました。

保護者：説明会、講演『幼少期の子どもたちの自然体験活動の大切さについて』

*詳細は、「保護者プログラム・1」(P12)をご覧ください。

◆16:00 ふりかえり・終了

子どもたちからは、森で見つけたものの発表をしてもらい、保護者さんからは、テントウムシのクイズを出していただき、次の活動でまた会おうと別れました。





第1回体験活動 もりであそぼう

10がつ31にち

～10月31日の1日～

てんき：晴れ

ばしょ：森の子キャンプ場、ツリーハウスの森



第1回目の活動は、「森を知り、森で遊ぶ楽しさを味わおう」をテーマに、1日森の中ですごしました。

- ◆10:30 集合・始まりの会
- ◆11:00 森へ出発
 - ・森のお話を聞こう
 - ・森にかくれた動物を探そう
 - ・秋の色探し
- ◆12:30 森でお昼ごはん
- ◆13:00 森で自由遊び
(落ち葉かけ、宝さがし、ブランコ
・ハンモック遊びなど)
- ◆14:00 森の秘密基地作り
- ◆15:30 ふりかえり・終わりの会・解散

かみあじみの森はどんなところ？

午前中に行った森の動物探しのゲーム（森に隠れた置物の動物たちを見つける）では、どの子も真剣になって探し、草や葉っぱの色にまぎれて見つけにくい生き物たちをどんどん見つけるなど、夢中になっていました。見つけられないお友達に、「あそこにいるよ」とそっと教えてあげる子がいれば、本物のトンボやテントウムシを見つけ、歓声をあげて報告しあう子もいました。秋の色探しのゲームでは、みんなで探検に出かけ、沢山の色の花や葉っぱを見つけようと一生懸命頑張る姿が見られました。また、いろいろ



な植物が見つかったら、今度は、帽子にさして飾りつけをしあう様子も見られました。

ぼくらだけのひみつきちを作ろう！！

午後の秘密基地作りになると、それぞれのグループの仲も深まり、和気あいあいと楽しみながら作る姿が見られました。みんなで協力して材料を「よいしょ、よいしょ」と運ぶグループがあれば、飾りつけ隊・屋根づくり隊・遊び道具作り隊と役割分担をするグループもありました。紐で木に結びつけて屋根や壁を作ったり、葉っぱや木の実をダンボールにつけて、看板を作ったり、枝をくみあわせて扉を作ったりと、子どもたちのアイデアがあちこちであふれだします。屋根にワラをひきつめた『とりわらハウス』に、秘密の合言葉で開く扉がある『ホホワイトタイガーハウス』そして、電話で連絡のとれる『みどりハウス』、ユニークですてきなお家が3つできあがりしました。最後には、それぞれのお家を発表し、他のグループのお友達をお客として招き、熱心に家の説明をしたり、案内したりしていました。



また、いろいろ





ハウスを作ったとき、やねの色が空みたいだったけれどももっとよかったのは、やねの上がわらがいっぱいでとりがすんでいるみたいで、ハウスをきにいりました



ハンモックで遊んだのがたのしかったよ。ひみつきちをつけたのがたのしかったよ。

ふりかえりシート

*子どもふりかえりシートより



～指導者記録ノート～

保護者さんの感想より～

- 「森の学校楽しかった～」の一言が親にとってはうれしいです。
- 途中からの参加でしたが、秘密基地づくりのことを楽しそうにはなしてくれました。これからの活動の中で、自立することや協調性などたくさんのお話を学んでほしいです。
- 古いわらぶきの家が好きなためか、「屋根にワラをのせたんや」とうれしそうにはなしてくれました。
- もっといろいろなことをやりたいと意欲が出てきたようです。自然とかかわる楽しさや、自信をつけていってほしいと思います。
- 家ではダンボール、外ではお友達と傘を使って基地作りをしているようです。
- 素敵な秘密基地を見せてもらいました。みんなで力をあわせて作ったんだろうと想像しながら、みてました。



*子どもふりかえりシートより

- 自然と共に遊ぶことがもっと好きになったような気がします。親子でのんびり散歩しながら道草して、草や花、虫を観察することが楽しみになりました。

第2回体験活動

もりのめぐみ でつくろう

12がつ5にち



～12月5日の1日～

てんき：雨のちくもり

ばしょ：森の子キャンプ場、ツリーハウスの森
第2回目の活動では、森の恵をいただき、焚き火や
工作に挑戦しました。

- ◆10:30 集合・始まりの会
- ◆11:00 子どもと保護者で別れて活動
子ども：森の落とし物探し
保護者：座談会
- ◆12:30 お昼ごはん
- ◆13:00 落ち葉で焚き火
(マシュマロ焼き・焼き芋づくり)
- ◆14:00 森の恵で工作・作品展覧会
- ◆15:30 おやつ(焼き芋)・ふりかえり
・終わりの会・解散

もりの落とし物をさがしに出発！！

午前中にでかけた森探検では、一人ひとりが思い思いに自然とふれあい、森の落とし物探しを楽しみました。誰かが何かを見つけたら、「こんなのあったよ～」と見せ、教えあい、「どれどれ？」とみんなが集まり、観察会がはじまります。班に1つもらったバンダナで作った袋には、赤や黄色、紫といった鮮やかな木の実や葉っぱが集まりました。



あたたかな火は、おいしさをくれた

お昼を食べてからは、みんなで大きな焚き火を作ろうとちわで「わっせ、わっせ」と扇ぎ、落ち葉やワラを入れる作業を頑張りました。火がつくと、「お～」と歓声があがり、更に大きな火をおこそ



うとする子がいれば、焼き芋

をつくろうとおいもを新聞紙とアルミで丁寧にくるみ、焚き火に放り込む作業に集中する子もいました。そし



て、焚き火ができると、今度はマシュマロ焼きに挑戦です。よい色に、そしておいしそうに焼こうと、工夫をこらし、割り箸につけられたマシュマロを火に近づけていきます。「わあ、こげちゃった!」「見てみて! いい色!」「とろける～」と口々に感想をいいながら、火でとろけたマシュマロをほおばりました。

うまれかわった落とし物たち

焼き芋ができる間、部屋の中にはいって、午前中に拾ってきた木の実や葉っぱで工作をしました。白い画用紙や紙皿を前に、迷うことなく次々と木の実や葉っぱをボンドでくっつけ、森の恵があふれるあたたかでみんなの工夫やアイデアがいっぱいつまった作品が次々とできあがりしました。拾ってきた葉っぱのついた枝に、小さな木の実や、ビーズをつけてクリスマスツリーをつくる子がいれば、キリの実と葉っぱをつかって森の妖精を作る子もいました。紐に通したドングリネックレスをお母さんにプレゼントする子もあらわれました。

その後に食べた焼き芋は、ほかほかで、とてもおいしいものでした。

秋の森、ごちそうさまでした！！



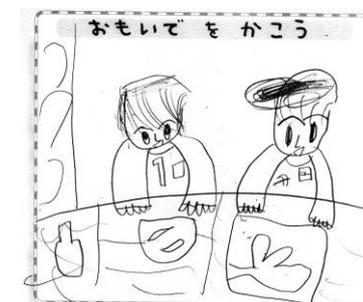


やまにのぼるのがたの
しかった。やきいもが
たのしかった。またた
べたいな。

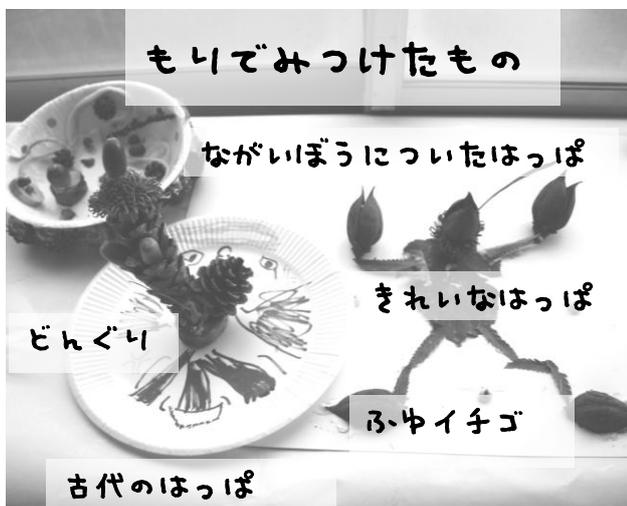


ふりかえり シート

*子どもふりかえりシートより



きょうは、はっぱをみつ
けてきのみもみつけた。
あか・あお・ちやいろ、
いろんないろ。



もりでみつけたもの

ながいぼうについたはっぱ

きれいなはっぱ

どんぐり

ふやイチゴ

古代のはっぱ

*子どもふりかえりシートより

- 「クリスマスツリーが欲しい欲しい」と言っていたので、工作ではツリーを作りました。とても上手くできていました。木の下には小さな動物までくっついていました。
- 一緒に活動できなかったのが心配でしたが、すごく楽しかったようで、色んな話をしてくれました。特に、マシュマロを食べた事が一番気に入ったそうで、家でもやってみたいと思います。

～指導者記録ノート～

保護者さんの感想より～

- 今回は、お父さん、弟も途中から合流と言うことでとても楽しかったようです。食べる事が好きなので「マシュマロがとても美味しかったよ～」と連発していました。冬イチゴは、活動終了後も取って持って帰ってきてくれました。
- 家に帰ってからも、自分の作った作品をうれしそうに見せてくれました。どこにでもある、枝や葉っぱなどで、ステキなものができる喜びを知ったと思います。
- とてもじょうずにどんぐりや木のえだをつかってサンタさんやトナカイさんがつくってあったね。お芋もとてもおいしかったようですね。とくにいっしょにやいたマシュマロがだいすきになっていえでもやってみたね。
- 自分から動いて活動する様子がたのもしかったです。たき火は町なかではなかなか経験できないので楽しそうでした。マシュマロもびっくりするくらいおいしかったね。



第3回体験活動

もりとくらそう

1がつ16にち・17にち

～1月16日(土)の1日～

てんき：晴れ時々雪

ばしょ：森の子キャンプ場、ツリーハウスの森

第3回目の活動では、1泊2日を通して森のそばですぐすこと、夜の森・朝の森を目で耳で、肌で感じとりました。

1月16日(土)

- ◆10:30 集合・始まりの会
- ◆11:00 雪の中をあるいてみよう
- ◆12:30 雪のレストランでお昼ごはん
- ◆13:00 雪で遊ぼう
(ソリ遊び、かまくら作りなど)
- ◆16:00 夜ごはんづくり・夜ごはん
- ◆19:00 雪灯籠作りとライトアップ
- ◆20:30 就寝



まっしろな世界を走りまわろう！

3回目の活動ということもあり、最初からわきあいあいとした雰囲気ですスタートしました。

しっかりと身支度した後、まっしろになった雪の上を元気に歩きました。ゆうにひざまである雪の中をかきわけ、時には転びながら進んでいきます。長靴での雪の感触を味わった後に、今度は『かんじき』をはいて歩いてみます。

かんじきは、はき慣れるまでが、なかなか大変。その中でも、靴で歩くのとは違った雪の感触を楽しんでいました。



ゆきはなんでもできる遊びの王国

お昼を食べた後にやったのが、雪の中での自由遊び。子どもたちの遊び力が大いに発揮されます。大きな大きな雪だるまを作る子がいれば、シャベルで穴を掘って足湯を作る子がいて、雪に埋もれたかまくらに穴を開けて、秘密基地を作る子ができます。



雪合戦も子どもたちが熱中する遊びのひとつです。たくさん雪玉を作って、かくながら、必死に投げていきます。

そして、山の斜面で始まったのが、ソリすべり。急な山を、ソリをひっぱりながら登り、「せーの」の合図で滑りおります。思った以上の高さに、最初は怖さでなかなかすべることができない子も、お友達と一緒に一度すべると、笑顔がはじけて、また登ってすべることくりかえします。山には、子どもたちがすべったソリのコースがいたるところに残りました。



せいかつだって、みんなでやるんだ

今回は、1泊2日のお泊りでの活動のため、遊び以外にもみんながやらなくてはならないことがたくさんありました。ごはん作りに、食器の消毒などのごはんの準備、皿洗いやテーブルふきなどのお片づけ、そして、寝床作りに、片付け、掃除・・・。



なににもかも自分たちだけでやらなくてはなりません。

大変なことも一緒にやる仲間がいれば、楽しいことに大変身！食器洗い競争になったり、引越しやさんになったり、ニンジンも型抜きを使って、お花畑にしたり。そして、遊びとはまた違った真剣なまなざしがどの子の目にも浮かんでいました。

夜は、教室の中で、寝袋を使って眠ります。いつもと違う環境で、お家の人と離れて眠る寂しさに涙を流す子もいましたが、朝になると、元気な顔に戻って、お散歩や森探検にでかけていきました。



一緒に遊び、同じごはんを食べ、隣あって眠るという生活をする中で、友達との仲も徐々に深まり、自由時間になればおしゃべりに花を咲かせ、鬼ごっこをして走り回ったり、手遊びをしたりと、大人がそこに入らなくても、子どもたち同士でふざけあい、わらいあって遊ぶ姿がたくさん見られました。

よるのせかいをともす灯

日が沈み、真っ暗になった雪の中で、今日一日のしめくりに、灯籠を作りました。バケツに雪をたくさんつめ、ひっくりかえしました。そこから自分だけの灯籠を作ります。自分の背丈ほどもある高い塔や、お城の形をしたもの、枝を使ってトナカイの灯籠もでき



あがりました。形ができると、ろうそくをさし、灯をともしていきます。灯がひとつふたつと増えてくると、そこはまるで、幻想の世界。昼間ソリで滑った山にも灯がとり、川の流れのように、山から校庭へと灯が広がりました。

～1月17日(日)の1日～
てんき：晴れ時々雪
ばしょ：森の子キャンプ場、ツリーハウスの森

- ◆6:30 起床・朝の支度
- ◆7:00 朝のお散歩(雪の結晶とつらら)
- ◆10:00 森の中に入ろう
- ◆12:30 お昼ごはん・掃除
- ◆14:30 ふりかえり
- ◆15:00 終わりの会・解散

あさのお散歩で、見つけたものは？

身支度がすむと、さっそく外にでて、朝にしか見られない不思議を探しにでかけました。

はく息も真っ白な朝に、まず見つけたものは、巨大な屋根からずり落ちる雪。見つけた子どもたちは、「大きなバームクーヘンだ!」と大さわぎ。そこから、雪の結晶を見たり、長いつららを見つけたりと、たくさんの雪に出会いました。

むかしの雪との生活を味わおう

かんじきに引き続き、昔の人たちが雪の寒さからしのぐために来ていた「蓑(みの)」を実際に

着てみました。着てみると、「ちょっとあったかい。」とほんのり笑顔に。だれが一番似合うか言い合ったり、笑いあったり、昔の人のくらしを垣間見ました。

どうぶつがくらす森へいざ出発!

かんじきをはいて、森の中へでかけました。森の動物たちは、どうやってくらしているのかな?と想像力をふくらませながら、生き物の気配を探しました。そうすると、発見!カモシカの足跡が現れたのです。「ここで何をしていたのかな?」「ごはんを探しにきたんじゃない?」「ぼくらみだにお散歩にきたんだよ。」とまた想像が膨らみます。その近くには、動物のフンも見つかり、ここに動物がくらすしていることを強く感じる事ができました。



たのしかった森での思い出をあぶりだそう

施設に戻ってきてやったのが、みかんの汁で書いた森へのお手紙。森でやった楽しかった遊びや発見したことなどを、みかんの汁で描きました。そして、乾いた後に、ストーブであたためると、森の絵や動物の絵、雪遊びをした絵があぶりだされました。

もりでみつけたもの



*子どもふりかえりシートより

ふりかえりシート

- *かもしかのあしあとを見つけてました。
- *そりあそびがたのしかった。
- *ねぶくろでねるのがたのしかった。
- *ゆきはけっしょうからできていたよ。



*子どもふりかえりシートより

ふりかえりかい 1がつ31にち



[ふりかえり会] 1月31日(日)
てんき) 晴れ
ばしょ) 福井市上味見生涯教育施設・周辺

- ◆13:30 受付
- ◆スライドショーで活動を思い出そう
- ◆活動で遊んだ森にみんなで行こう
- ◆子どもと保護者でわかれてふりかえり
- ◆16:00 ふりかえり・終了

スライドショーや森への探検で、3回の活動をふりかえりました。森への探検では、子どもたちは、自分たちが遊び・歩いた森に、保護者さんを案内してくれました。自分の親のことを気遣ったり、体験したことを教えたりなど、たくましさを見ることができました。そして、ともにすごしてきた仲間たちと、森で行われたことを言いあうなど、活動場所でやったことをふりかえることもできました。

